

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	2002
Jtitle	哲學 No.107 (2002. 1) ,p.311- 311
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000107-0314

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『哲学』での特集号の企画の第二弾として、文化人類学や民俗学に関わる論文や研究ノートを掲載する試みを行った。社会学・心理学・教育学などのように比較的体系化された学問分野と異なり、人類学者や民俗学者は多くの専攻に分散して研究・教育にあたっており、相互にうまく連携して情報交換をすることが求められる。編集を進めながら、今回のような試みによって、間歇的に文化人類学の現代的課題を発掘していくことの必要性を痛切に感じ取った。21世紀の後半には、文化人類学という学問はなくなってしまうかもしれないという予言めいた発言をする人々もいる。確かに、隣接諸学において同じような主題が取上げられ、

緻密に構築された理論が提示されている場合もある。もし、フィールドワークという人類学の生命線の内容が陳腐で底の浅いものになってしまったら、確かにその存在価値はなくなってしまうだろう。しかし、人間という複雑怪奇で捉えどころのない存在に対して、絶えざる好奇心によって肉薄する精神さえ失わないならば、まだまだやるべきことは沢山ある。若手の研究者の未熟な部分はあるにせよ、意欲溢れる論考を前にして、そんな感慨を抱いた。今回の特集を踏み台として、近い将来にまた異なる視点から文化人類学の論集が刊行出来ることを期待したい。

(鈴木正崇)